

三豊・観音寺支部国語部会

三観・大野原中 大塚 裕介

1 研究主題

生きて働く言葉の力を育む国語教室
～言葉による見方・考え方を働かせ、深まる学び～

2 研究活動の概要

〈令和7年度 三観地区中学校教育研究会国語部会夏季研修会 7月25日(金)〉

- (1) 会場 観音寺グランドホテル
- (2) 部員研修会(研究授業)の内容検討
発表者 山下 龍一 教諭(豊浜中)

10月14日の三観地区中学校教育研究会国語部会部員研修会で行われる研究授業の内容検討を行った。授業者である山下先生から、「私のタンポポ研究」の1時間目を研究授業で行い、単元の導入としてクイズやグラフから分かることを文章にまとめると発表があった。

その後の質疑応答では、本單元における学習指導要領の指導項目の確認や、2時間目以降の学習の進め方などについて話し合いが行われた。

(3) グループ別教材研究

希望する教材ごとにグループを組み、教材研究を行った。教科書が改訂されたこともあり、新教材を中心に話し合った。若年教員がベテラン教員へ熱心に質問したりメモを取ったりするなど、有意義な研究の時間となった。

〈令和7年度 三観地区中学校教育研究会国語部会部員研修会 10月14日(火)〉

- (1) 会場 観音寺市立豊浜中学校
- (2) 研究授業参観及び研究討議、指導・助言
授業者 山下 龍一 教諭(豊浜中)
指導者 山崎 大 教諭(附属坂出中)

(3) 学習指導過程

- ① タンポポの種類と分布図から学習課題を把握する。

三つの情報から東京にどのタンポポが一番多いか推測しよう

- ② 三つの情報から読み取れることを自分で考える。
 - ・ タンポポに関わるグラフとその見方を確認する。
 - ・ 情報から推測される内容+理由を自分の言葉でまとめワークシートに記入する。
- ③ 意見を班で共有し、全体で共有する。
 - ・ 三つの情報から読み取れたことを班で共有する。
 - ・ ホワイトボードに班で推測した内容+理由を記入し、発表する。
- ④ 東京にどのタンポポが多いか、自分の言葉でまとめる。

(4) 主な教師の支援

- タンポポの種類や分布図を提示する。
- 考えの基礎となるグラフを提示し、その見方について説明する。
- 机間巡視しながら、どの部分に注目したか、どんなことが推測されるかについて考えるよう指示する。
- 三つの情報全て根拠として考えることが重要であることを意識させる。
- 必要な情報を見付け出すことが苦手な生徒には、どこに注目して見ればよいかを助言する。
- 班のメンバーと同じ考えの時はその根拠も同じであることを確認させ、より説得力のある理由になるよう助言する。
- 班のメンバーと異なる考えの時は、どちらの考えが正しいかを根拠を挙げて説明し合うよう助言する。
- 答えごとにホワイトボードを並べ、根拠を比較する。

- 対象を小学6年生に設定し、東京にどのタンポポが多いか、自分なりの結論と根拠を書くように指示する。

(5) 評価の観点

- 三つの情報を正確に読み取り、それを根拠として自分の考えを書くことができる。(思考・判断・表現)
- 自分の考えを班員に積極的に伝え、班のメンバーと協力し課題解決をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(6) 討議

①ICTの活用

- ・ICTで提示した資料が視覚的に工夫されており、見やすい。
- ・テレビ・ワークシート・黒板と、3か所に視点が移るので、なるべく視点の移動が少なくなるような工夫があればよい。

②学習につまずいている生徒への支援

- ・グループ活動の時間がたくさんあったので、書けていない生徒も友達に聞くことができた。

③グループで出た意見を整理し、学びに生かす方法

- ・生徒は自分の考えを班や全体で素直に伝えることができていた。
- ・発表して終わるのではなく、意見が出た時に揺さぶることが大事である。

(7) 指導・助言

初任者でも、オリジナルの授業をつくりあげたことが頼もしい。難しい課題であったが、生徒は進んで書き始めた。授業の最初に丁寧に説明をした成果である。悪例を示したのは非常に国語的であり、生徒が言葉に着目することができた。書くだけにとどまらず、根拠や理由が明確であるか、順序は適切か等を確認していくことで、国語の授業として成り立つ。

3 成果と課題

今年度は部員研修会における研究授業を行っ

た。授業検討の段階から三観地区の全国語部員が関わり、説明的文章の教材研究や授業の組み立て方などについて意見交換することができた。研究授業においては、個に応じた指導やICTの活用、グループ活動により、生徒は活発に対話をしたり、どの生徒も意見を書いたりすることができていた。

三観地区では、本年度も隔月で勉強会を実施している。12月までに実施した勉強会では、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、語彙指導、研究授業の内容検討などを行った。模擬授業や実践資料から学ぶ機会もあり、自らの授業に取り入れたいような内容が多かった。参加者には若年教員が多く、教材研究力や授業力の向上に向け努力している。校務に忙殺される中、時間や場所の確保などに課題はあるものの、今後も継続していきたい。

三観地区の部員の年齢構成を見ると、若年教員が増えており、ベテラン教員のノウハウの継承が課題である。勉強会や研修会などで教材研究や授業について話し合う機会を設け、地区一丸となって授業力の向上や研究の推進に努めていきたい。



【10/14 研究授業の様子】